

予算決算委員会 会議記録

- 1 期 日 令和 2 年 3 月 26 日（木）
午前 11 時 26 分 開会
午後 2 時 38 分 閉会
- 2 場 所 豊岡市議会議場
- 3 出席委員 委員長 松井正志
副委員長 伊藤 仁、西田 真、浅田 徹
委員 青山憲司、芦田竹彦、足田仁司、
石津一美、井上正治、上田伴子、
上田倫久、岡本昭治、奥村忠俊、
木谷敏勝、嶋崎宏之、清水 寛、
竹中 理、田中藤一郎、椿野仁司、
土生田仁志、福田嗣久、村岡峰男
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 市長 中貝宗治、副市長 森田敏幸、
副市長 前野文孝、教育長 嶋 公治、
政策調整部長 塚本繁樹、総務部長 成田寿道、
環境経済部長 坂本成彦、環境経済部参事 小林辰美、
教育次長 堂垣真弓、財政課長 畑中聖史、
環境経済課長 柳沢和男、大交流課長 谷口雄彦
- 6 傍聴議員 関貫久仁郎
- 7 事務局職員 局長 松本幹雄、次長 宮本ゆかり、
主幹兼庶務係長 小林昌弘、主幹兼議事係長 佐伯勝巳、
主幹兼調査係長 木山敦子、副班長 藤井正吾
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

予算決算委員長 松 井 正 志

予 算 決 算 委 員 会 次 第

日 時：2020年3月26日(水) ： ～

場 所：議 場

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 付託案件の審査について

第45号議案 令和2年度豊岡市一般会計補正予算（第2号）

(2) その他

4 閉 会

令和 2 年度第 1 回豊岡市議会（定例会）議案付託分類表

【予算決算委員会】

第45号議案 令和 2 年度豊岡市一般会計補正予算（第 2 号）

午前 11 時 26 分開会

○委員長（松井 正志） それでは、ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

本会議休憩中の委員会審査ということでございます。限られた時間ではありますが、慎重審査をよろしく願いいたします。

なお、今回の新型コロナウイルスと申しますのは、世界規模で大変大きな影響を及ぼすものと考えております。我々が過去経験したことがないような事態にも陥るかもわかりません。したがって、この委員会審査におきましても、過去行っていないようなやり方になるかもわかりませんので、その点は皆さんのご協力いただきながら、適切な委員会審査を行っていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、早速、（１）の付託案件の審査に入ります。

まず、当委員会に審査を付託されました案件は、次第書に記載しておりますように、第４５号議案の１件であります。

お諮りいたします。本日、本委員会に付託されました議案につきましては、豊岡市議会予算決算委員会運営要綱第５条第１項ただし書きの規定により、分科会への分担を行わずに、委員会全体で審査を行うことにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（松井 正志） ご異議なしと認め、そのように決定しました。

まず、審査の流れにつきまして確認させていただきます。

当局職員の出席につきましては、議案に係る部署の出席としておりますので、ご了承をお願いいたします。

ただし、先ほど本会議でもありましたように、市長以下の委員会への出席要請につきましては、委員会審査の中で皆さんとご相談させていただいた上で、決定した上で諮っていきたいと思いますので、その点もあらかじめご理解をいただきたいと思います。

審査方法につきましては、当局から説明を受け、質疑、討論、表決を行い、その後、委員会意見、要望の取りまとめを行いたいと思っています。なお、質疑、答弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて、簡潔明瞭に行うなどスムーズな議事進行に格別のご協力をお願いいたします。

第４５号議案、令和２年度豊岡市一般会計補正予算（第２号）を議題とします。

当局の説明に当たりましては、資料のページ番号をお知らせください。

それでは、説明をお願いします。

財政課長。

○財政課長（畑中 聖史） 私からは、令和２年第１回豊岡市議会と書いてあります資料をもとに説明させていただきますと思います。

タイトルが令和２年度一般会計補正予算（第２号）の概要というものでございます。

新型コロナウイルス感染症に係る支援ということでございまして、１つ目が中小企業の支援でございます。金額といたしましては、２、０００万円となっております。２番目が（仮称）豊岡子ども３０、０００人応援プロジェクト“豊岡を遊ぼう！”というものでございます。総額１億４、０００万円でございます。２つ合わせまして１億６、０００万円の歳出予算となっております。財源といたしましては、財政調整基金の繰入金で全額１億６、０００万円充てることとしております。

財政課からは以上でございます。

○委員長（松井 正志） 環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） それでは、先ほどお配りをしました、２０２０年３月２６日、予算決算委員会資料と書きました、こちらのペーパーのほうで説明をさせていただきたいと思います。別に配付をしました資料のほうで、ご説明をさせていただきたいと思います。ございますでしょうか。

それでは、表紙をめくっていただきまして、１ページでございます。まず、第１弾としまして、補正予算（第１号）のほうで提案をさせていただいておりますけれども、補足を少しさせていただきたいと

思っております。

まず、金融支援としまして、市の制度融資を活用しまして、そこに長期融資、新型コロナウイルス対策という枠を設けさせていただいて、その中で、その長期融資を利用いただく方に対しまして、利子補給を行うということで、実質3年間の……（発言する者あり）させていただく制度につきましては、従前、ご説明をさせていただいたとおりでございますけれども、利率のところが整っておりませんで、調整中というふうなことでさせていただいております。このたび関係機関との調整が整い、年0.7%ということになりましたので、ご報告をさせていただきます。こちらにつきましては、県の制度と同じ利率というふうなことで取り扱うことになりました。

加えまして、1ページが一番下でございますけれども、企業支援としまして、収束を見据え業務改善、生産性向上に着手する事業者等におきまして、ステップアップ補助金の支援をプラス1,000万円ということさせていただいたところでございます。第1弾としまして4,000万円の支援をするというふうな枠組みをまずもって、させていただいております。

ページをさらにめくっていただきまして、最後でございます。3ページになります。今回、第2弾の市内中小企業支援ということでご説明をさせていただきます。

大枠につきましては、市長のほうから説明をさせていただいたとおりでございますけれども、一番下に囲みをつくっております。事業者等のニーズ、こういったことを踏まえて、今回の第2弾の支援ということを考えさせていただいてるというふうなことでございます。一番上の囲みの中でございますけれども、中小企業の経営安定化を図るため、相談体制や助成金等の手続への支援を行うというのが大きな項目でございます。対象は、市内中小企業等というふうにさせていただいております。市内中小企業の活動をダイレクトに支援するような、そういったところに重きを置いておるところでございます。

支援の内容につきましては、緊急経営相談あるいは緊急労務相談をするような部分、それと、実際に国のほうの雇用調整助成金等の申請がなかなか煩雑であるということがありますので、事務のサポートをさせていただく社会保険労務士等の専門家への指導等、そういったところに支援をしたいというふうなことでございます。

こちらにつきましては、商工団体、商工会議所、商工会に業務委託をして、4月1日から1年間の委託ということで行いたいというふうに思っております。

予算規模につきましては2,000万円ということで、各団体へ1,000万円ずつの委託というふうなことを想定しております。相談業務あるいは個社のサポートにつきまして、そこに計上しているとおりでございます。

この支援につきましては、商工団体の会員、会員外を問わず利用可能というふうにしておりますので、奮ってお使いいただくようなことで、関係機関と連携をしていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 私のほうからは、新型コロナウイルス感染症に対する反転攻勢事業について説明をさせていただきたいと思います。

資料につきましては、先ほど財政課長が説明をさせていただきました、表紙が令和2年度一般会計補正予算（第2号）の概要の3ページをお開きいただけますでしょうか。

仮称で、豊岡子ども30,000人応援プロジェクト“豊岡で遊ぼう！”というふうに名づけてございます。

まず、事業の目的でございますけれども、大きく2つあるというふうに考えてございまして、1つ目は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を、特に大きく受けた観光業に対する対策事業でございます。

もう一つは、長期にわたりまして自宅待機を余儀なくされている子供たちに対して、豊岡での体験を通して元気を取り戻していただくという、2つの

大きな目的を設定してございます。

対象につきましては、市内の子供たちと原則市内に宿泊する子供たちといたしておりまして、想定しますメインのターゲットにつきましては、小・中学生を想定してございます。

3の実施時期でございますけれども、基本的に収束することを前提に夏休み期間中を想定をし、準備を進めたいというふうに思っております。ただし市内の子供向けのアクティビティークーポンの提供につきましては、大型連休以降を想定してございます。実際の実施時期につきましては、新型コロナウイルスに関する今後の状況を十分見きわめて、慎重に判断したいというふうに考えてございます。

4の事業の概要でございますけれども、大きく観光客向けと市内子供向けの2つに分けて整理をしてございます。(1)の大交流の実現、観光客向けというところでございますけれども、新型コロナウイルスによる観光業への打撃に対し反転攻勢をし、子供たちを中心にした豊岡との大交流を実現し、以下のプレミアム措置を講じていきたいというふうに考えてございます。

1つ目がアクティビティークーポンの提供でございます。対象者は市内に宿泊する小・中学生2万3,000人を想定してございます。こういった宿泊を伴う小・中学生に対しまして、1人2,000円相当のアクティビティーへの体験の応援クーポンを配布したいというふうに考えてございます。

2つ目が質の高いアート体験の提供ということで、さまざまなアート体験を無償で提供することとしてございます。具体的には、この月末にプレオープンします、江原河畔劇場でありますとか城崎国際アートセンター、出石永楽館での子供向けの演劇の上演、それから、イとしまして演劇のワークショップの開催、ページをめくっていただきまして、ウとしまして、町なかでのパフォーマンス、大道芸の実施、それから、子供でも楽しめるようなデジタルアートの提供、さらに最後に絵本作家による絵本の朗読会やサイン会の開催を想定してございまして、予算といたしましては、もとに戻りますけれども、4,

872万5,000円を計上してございます。

ウでございますけれども、これらの事業内容やコンセプトを的確にターゲットに届けるために、情報発信のタイミングや内容、手法などについて全体設計を行い、この設計に基づいて具体的な事業PRをする予算といたしまして、1,706万2,000円の予算を計上させていただいております。

さらに、エでございますけれども、市内での周遊を促進するアプリの導入を検討していきたいというふうに考えてございます。参加者にポイントを付与したり、スタンプラリーを促すことによって、市内の周遊を促すためのアプリの予算として350万円を計上させていただいております。

オといたしまして、地域の特徴を生かした子供向けのコンテンツの組成を支援したいというふうに考えてございます。本事業のコンセプトに合致する子供参加型のプログラムの強化、または新設案件につきましては、民間の例えば観光協会でありますとか企業からアイデアを募り、選考した上で、必要な経費を補助したいというふうに考えてございまして、1団体当たり上限200万円、対象経費の3分の2以内を想定してございます。この予算といたしまして、200万円掛ける5団体ということで1,000万円計上させていただいております。

大きく2つ目、市内の子供向けの応援策でございますけれども、先ほどの市外向けと同様に、アクティビティークーポンの提供を想定してございまして、対象人員は7,000人を見積もり、合計金額といたしまして2,000円を掛けまして1,400万円の予算を計上させていただいております。

イも市外向けの子供たちに対する内容の再掲でございますけれども、市内向けの子供たちにつきましては、アのところ括弧書きをしておりますけれども、江原河畔劇場、国際アートセンター、永楽館での上映に加えまして、小学校単位に出向いての巡回公演を検討してございます。

5でございますが、以上の全体調整事務費といたしまして、71万3,000円を計上させていただいて、合計で1億4,000万円の予算となつてご

ざいます。

実施主体につきましては、豊岡ツーリズム協議会への補助ということで実施をさせていただけたらというふうに考えてございます。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） まず、簡単なことからお聞きしたいと思うんですが、2番の大交流の実現を含めて、1億4,000万円を豊岡ツーリズム協議会に補助金として出す。この豊岡ツーリズム協議会というのはどんな団体で、どこに事務局があって、余り聞きなれない団体に思うものですから、それをまず聞かせてください。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 豊岡ツーリズム協議会に関しましては、合併前の観光協会がそのまま継続しておりまして、その合併前の観光協会の連絡調整機関として組織しているものでございます。事務局につきましては、大交流課が所管をしてございます。

○委員長（松井 正志） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ということは、観光協会の1市5町合併した後の、もっと言えばある面では観光協会であり、ある面ではツーリズム協議会でありというふうに理解したらいいのかな。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） そうです。各観光協会の連絡調整機関としてツーリズム協会があるというふうにご理解いただけたらと思います。

○委員長（松井 正志） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） コロナで元気を失っている子供たちに元気をということもよく理解ができますし、あるいは観光業への活性化という点も理解ができるんですが、印象として、演劇の支援金かという印象を持つぐらい偏った感じがします。

それと、これは要望になるんですが、中小業者等々への支援というの、コロナでいろいろ利子補給も含めてあるんですが、それ以外の業界ですね、なりわい。例えば農業や漁業というのは全く何にもな

いんですね、国も。農業者の中から、われらは放ったらかしじゃと。われらから被害受けとるわいという声もあるもんですから、これは一度検討願いたいということだけ申し上げときます。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

岡本委員。

○委員（岡本 昭治） まず2点ほど聞きまして、また後から聞かせていただきます。

済みません、どっちの資料からいったらいいかわからんですけど、きのう、夜いただきました、こちらのほうのページでいきますと2ページ、市内中小企業のところに対する支援対象の中で、4番の予算規模の中の（１）、（２）の中で、説明会を7月まで月2回追加開催となっております。これは現状、何回開催されておって、なおかつ月2回、追加開催という意味で理解しておりますけれども、それが1点教えてください。

それと、その他のところで、5番ですね、その他のところ、（１）非会員にも問わず利用可能となっておりますけれども、非会員に対する周知方法、どのような周知で行っていくのかと、こういう時期ですので機敏に対応していただくことが大事なかなと思いますので、まず、この2点、お伺いいたします。

○委員長（松井 正志） 環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） まず、相談会の関係でございますけれども、各商工会議所、商工会さんがそれぞれ自前でされるものがあるかと思っております。それに加えて、市のほうでプラス7月までに月2回開催をというふうな趣旨で書かせていただいております。

具体的に各商工会、商工会議所さんで何回されるかというのは、ちょっと今つかんでおりませんので、また改めてお知らせをさせていただけたらというふうに思います。

2つ目の質問でございますけれども、収支の方法につきましては、市でさせていただく部分としましては、まず、ホームページでの周知ということがあろうかと思いますが、防災無線での放送等も絡めて、広く皆さんに伝えられるようにさせていただきたい

というふうに思っております。また、委託をしますそれぞれの団体のほうのルートでお知らせをするという中で、会員外にも届くところがあればお願いしたいというふうにも思っております。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 本当にもう皆さんもご存じのように、緊急というところが多々あると思いますので、素早く、求められる方に対して情報が届くようなことをきちっととっていただきたいというふうに思います。

それでは、次のちょっと質問ですけども、今度3ページですね。豊岡子ども30,000人応援プロジェクトの中の事業概要の中について確認をさせていただきます。

大交流の実現ということで、アとイとあります。アの中で利用できる施設だとか観光協会を通じてということになってますけども、これとは別に質の高いアート体験の提供ということで、イのほうで計画されておりますけども、これは分けた意味ですね。どういような、イのほうでは施設だとか観光協会を通じて動くわけですけども、イのところでは質の高いアート体験の提供ということで、4,800万円ほど上げてますけども、これはどのような動きになるのかお答えいただきたいと思います。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） まずアクティビティクーポンの利用先でございますけども、これにつきましては、この趣旨に事業者のほうで賛同していただくことがまず前提となりまして、といたしますのも、手間がかかるということであったり、入金がおくれるということがございますので、事業の趣旨に賛同していただいて、そういった事業者を募りたいというふうに思っているのが、1番のアクティビティクーポンの事業者選定の考え方でございます。

イにつきましては、これ、豊岡市として公演を買い取る形になりますので、どういった劇団かまだ具体的には決まっておりますけれども、買い取って、そういった機会を提供したいというふうに考えて

ございます。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） それで、今、買い取りというようなことをお聞きしました。例えば買い取りをされて開催される演劇の中に、参加者が例えば1人だとか2人だとかいった場合も考えられると思いますけども、その場合でも、予定されている金額を、当然、参加者がいるわけですから、支払われるのかどうか、それはどのようにお考えでしょうか。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 今、基本的な予算の見積りの考え方につきましては、夏休みに入りましてからお盆までの土日、祝日で開催することを想定しておりますけども、具体的にどの日に何公演するということまでは、まだ整理ができておりません。

ただ、基本的には買い取った場合には、お客さんが1人であったとしても、それは上演していただくことになるというふうに考えてございます。基本的に子供については無料を想定しておりまして、大人につきましては相当額の料金を払っていただくことを想定してございます。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 3回目ですね。済みません、4ページのほうに、4ページのウのところ。コミュニケーションプランの設計及び周知事業の中の1,700万円について……

○議会事務局長（松本 幹雄） 3回だけじゃなくてもいいです。制限ないです。

○委員（岡本 昭治） ああ、いいんですか。失礼しました。済みません、続けて、1,700万円の予算が上がっております。この中の内容を見ますと、多分、全体設計を行う部分とそれをチラシやウェブサイト制作だとか、それに載せるという2つのことに分けられるんじゃないかなと思いますけども、この2つの事業に対する積算ですね、1,700万円の積算根拠というのは多分あると思いますので、それをお知らせください。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 1,700万円の内訳

につきましては、まずコミュニケーションプランの設計の部分が330万円程度を想定してございます。そのほか、実際の広告として雑誌広告でありますとか、例えば駅、列車内での交通広告、それから、ウェブによる広告を想定していますのが、1,700万円のうちの970万円程度、それから、もう一方で応援クーポンの体験クーポンの印刷費でありますとかチラシ、ポスターの印刷費として400万円計上してございます。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） わかりました。もう一つ済みません、続けて申しわけないんですけども、オのところですよ。1,000万円の事業が上がります。その中で参加プログラムの強化または新設案件の民間の団体や企業から公募となっております。この公募される範囲ですけども、市内なのか市外の業者を含むのか、この点、お伺いいたします。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 基本的には市内の事業者、業者を想定してございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 以上です。

○委員長（松井 正志） 暫時休憩します。

午前11時49分休憩

午前11時52分再開

○委員長（松井 正志） では、休憩前に引き続き委員会を再開します。

田中委員。

○委員（田中藤一郎） 先ほど岡本議員の関連であるんですけども、オの地域の特徴を生かした子供向けのコンテンツの部分ですけども、多分皆さん、やはり死活問題としていろんな企画といいましょうか、考え方が多数出てくるというふうに予想されるんですけども、そういった場合、この金額で足りるのか、もし多数な場合は増額とか臨機応変な形を考えられてるのかどうかいかがですか。

○委員長（松井 正志） 環境経済部参事。

○環境経済部参事（小林 辰美） まず金額の件です

が、一応予算として1,000万円ありますので、件数なり個々の、例えば少ないところもあれば多少融通がきかせることも可能であると、件数をふやすことも可能であるというふうに考えております。天は一応、今のところ予定は天が200万円ということなんですが、例えば100万円のところが多ければ、数をふやしてできるということも可能だというふうに考えております。

また、総枠でございますが、全体の事業の中でまた調整できる部分があって、どうしても効果が高いというものがあれば、また総枠の中で、補助金の総枠の中で考えさせていただけたらというふうに考えております。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） ということは増額というか1,000万円にこだわってないというふうに理解すればいいんですか。

○委員長（松井 正志） 環境経済部参事。

○環境経済部参事（小林 辰美） 基本的には予算がありますので、そこを目安に進めますが、周りの状況ですね、ほかの契約、まだ見積もりの状況です。で、実際、契約してみると金額が減ったりふえたりがあるかと思しますので、そのあたり様子を見ながら、とりあえずは1,000万円という計画で進めさせていただきたいというふうに思います。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） とりあえずはわかってるんですけど、それ以上のことを考えた場合はしっかりと考えておかないと、ある意味、中途半端に終わってしまって、来られた方が、いや、もう金額を達成したんで、きょうからできませんとかいうような、逆にアナウンスができるのかどうかというふうな部分があったりとかするんですけど、もう一回確認で1,000万円以上は出さないのかどうかだけ、そういった場合のリスクといいましょうか、そういったことは考えられておられるのか。

○委員長（松井 正志） 環境経済部参事。

○環境経済部参事（小林 辰美） 先着順ではなくて一斉に応募していただいて、同時にやりますので、

その効果を見ながら選定は行いたいと思いますが、先ほど議員がおっしゃったようなケースにつきましては、その都度、臨機応変に対応できればというふうに思います。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） それと対象の経費といいましょうか、これ、3分の2ということであるんですけども、要は皆さん、苦しんでいる状況下の中で、3分の1を負担せというような形で、それがネックになって逆にそういった応募ができなかったりだとかいうような想定が考えられるんですけども、これ、全額だとかいうふうなことは考えられてなかったのか、そのあたりどうですか。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 当然、補助率については議論をしまいいりました。その中で2分の1であったり、3分の1であったり、全額というところも選択肢であったわけですけども、10分の10を補助してしまうと、事業の効果といいますか、事業効果の高いような、真剣に考えられたものは出てこないんじゃないか。一定のご負担をいただく中で、市として援助をする形がふさわしいんじゃないかということで、3分の1とさせていただきました。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） この緊急事態等、間違いなく苦しんでいる状況の中で、高いだとか言うてくるようなことの、そういう議論、真剣に考えられた、短い時間の中で考えられる中では、やはりこの3分の1の負担というのは、その団体に対して、ある意味ふるいをかけてしまう場合も考えられるんですけど、その変更等は考えられないんですか。

○委員長（松井 正志） 環境経済部参事。

○環境経済部参事（小林 辰美） 基本的にアクティビティーで、今後は料金を取っていただいたり、今後、営利目的に使ってもらおうというのが基本ですので、その点につきましては、やはり今後の継続性を考えると、ここで全く負担なしであるとはもうけるだけというようなことになるのは、ちょっと税金を投入するのにどうかというふうに思いますし、そう

いう、今後ちゃんと収支が合うようなことを考えた計画は当然出てくるということを考えると、幾分か負担していただくのが妥当かというふうに考えております。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 何度も言いますが、緊急事態なんですよ。普通の状況だとか、通常の中のイベントだとかいうようなことであるんだったら、今の論法といいましょうか、そういったことは考えられるんですけども、本当に苦しんでいるところを、一人でも多くやっばり来ていただこうだとかいうふうなことをしようとしてるのに、そのあたりの考え方というのがかなりギャップがあるようには思われますけれども、もう一回、そういったところを考えられるのかどうか、いかがですか。

○委員長（松井 正志） 環境経済部参事。

○環境経済部参事（小林 辰美） 今回、緊急の対策として出させていただきますが、この場合は緊急に経営困難で助けなくてはいけない方を救うという事業ではなくて、アクティビティーを充実させるということを目的にさせていただきますので、そのあたり、経営の関係につきましては違う制度で対応していただけたらというふうに思いますし、先ほど申し上げましたように、今後の経営のための投資という面では、全額というのは税金を充てにくいというふうに考えております。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 何度も済みません、申しわけないです。この趣旨というのが、考え方が違ってるのかなというふうに思いますので、もうちょっと真剣に、もう少し業者さんの、まちのことを考えていただきたいなというふうに思っております。まずはとりあえずは質問を終わります。

○委員長（松井 正志） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 私は短目に。先ほど岡本議員の何だかな、アート体験だったかな、谷口君が答弁してくれたんだけど、演劇の機会をアート体験を通じてということなんだけど、買い取りだから、もう1人で、観客1人でもやりますよというふうに発言

したと思うんだけど、それ、全くナンセンスだ。それで、だったら、さっき、今、クラスターの問題じゃないけど、市長はそれなりの劇場とかアートセンターとはちょっと違うとかなんとか言っとったけど、考え方の問題だけど、それは1人でやったって全く意味がない。やっぱりそれだったら、例えばそこから、場所から出ていって、違うところで公演してあげるから、ここに限定せずに豊岡市が演劇のまちなら演劇のまちで、いろんなところに行けばいいじゃない。神鍋に行ったってできるそこはあるだろうし、環境や天候があるでしょう。もうちょっと柔軟に、あなただったら考えられるでしょう。なぜそれを言わない。1人にこだわる必要ないやないか、それ。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 柔軟に考えさせていただけます。

○委員長（松井 正志） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 柔軟に考えて、本当に。出石でも但東町でもやり方によってはあるんですよ、本当に。例えばチューリップのところでもできるわけだし、神鍋高原でもできるわけだし、竹野の海岸のところでもできるわけだ。あんたらしくやってください。

それから、今、アンケートもあるんだけど、ここまで来るまでに市内の業者、観光業、旅館からはいろいろアンケートもとりました。市内の業者の皆さんからどういうふうな調査を、市は今までやってきたのか。それから、これからどうやっていくのかというところ辺を一度、もしもわかってることあったら、今、言ってもらいたい。これは本当に大変なことだと私思ってますよ。豊岡市なんかは特にいろんな職業というか、いろんな事業所がたくさんありますからね。大きな影響を、末は市民の生活にかかわってくる。

中でも、今、教育次長、そこにおられるけど、私もちょっと聞いた話、学校が休業、休校になりました、この間ね。それから、これからひょっとしたら、あってはいけないかもわかんないけど、これからま

た、豊岡にそういうことが起こり得るかもわかんない、非常事態があつて。今まで、2週間だったかな、休んだときに給食がとまりましたよね。その仕入れ業者さん、1年間の間で学校給食と仕入れしてる、約束されてることがストップした。大変お困りだというふうに私はお聞きしてます。教育委員会も、そのことについては緊急に調査をされたというふうにお聞きしてますが、そのことをちょっともしもわかってることがあったら、ここには触れてないんでね、全く。そういうことについてはどうなのかなということも含めてどれだけ調査をし、これからどういうふうにしていこうかというところも含めて、今、ちょっと教育委員会に名指しをしましたけど、お答えができるんだったら答えていただきたい。

○委員長（松井 正志） 教育次長。

○教育次長（堂垣 真弓） 学校の給食につきましては、基本的に業者との契約がございますので、当初はその契約のとおり、とりあえず休止、キャンセルをさせていただいております。

ただ、そのようなお話もお聞きする中で、契約と申しましても、基本的にインフルエンザでの学校の休校ですとか、あと少ない日数での休校ということは想定しておりますけれども、今回のように豊岡市全体、今回は日本全国だったんですけども、一斉の、それも2週間という休校については余り想定をされた契約にはなっておりませんので、それぞれの業者について、全部確認をさせていただきました。業者につきましても、中間業者が入っているところもございますので、そのような、例えばJAさんですとか、そのようなところには、そこがまた依頼をされている農家にも全部聞き取りをさせていただきました。その中で、例えば転用ができたとか、ほかにも販売できたというところは除いて、どうしても廃棄をせざるを得なかったというところについて、金額等も確認させていただき、それにつきましては、今回、補正とかでは上げておりませんが、現計予算がございますので、現計予算でお支払いをしたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○委員長（松井 正志） 環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） これまでの調査につきましては、商工会、商工会議所さんのアンケートがあるということも踏まえながら、手薄になるようなところが、製造業のところが大きくなるかなというふうに思っておりましたので、中核工業団地に立地をされている企業さんへの聞き取りでありますとか、豊岡市工業会の役員会等を通じて、状況の把握あるいは要望があるのかなのかというようなところの投げかけ、そういったことも、今しているところでございます。

そういったところの状況も踏まえまして、今後、国の次の支援とかいうようなことが出てくる中身も見ながら、豊岡市としてやるべきところがどこなのかということは見定めていきたいというふうに思っております。

それと、先ほど岡本議員のご質問に対しまして、ちょっと保留をさせていただいていた点につきまして、回答させていただきます。

商工会、商工会議所ともに、通常は月1回の経営相談をしていただいているようでございます。このコロナの関係で、今年度、特に3月につきましては商工会は3回実施をすると。4月につきましても5回プラスでやるというふうな予定を聞いております。

商工会議所につきましても、3月の30日に緊急分として実施をするという予定がございます。4月以降は未定ということで、緊急分については未定ということで聞いております。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 観光産業につきましては、先ほどご説明させていただきました、豊岡全体を統括するツーリズム協議会の会長、副会長からご要望をいただいたり、城崎の観光協会の方々からご要望いただいた上で、各観光協会の事務局、それから、観光協会が推薦される若手の観光事業者を集めまして、振興局の職員もですけれども、アイデア出しのワークショップをさせていただきました。このワークショップにつきましては、今後にも必要に応じて、引き続き開催していきたいというふうに考えて

ございます。

○委員長（松井 正志） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） ありがとう。次長、確かにいろいろと調査をしていただいたんですが、中でも豊岡市内だけではなく、お隣の京都府だとか鳥取だとか、それから、もう少し遠いところ、東海地方だとかいったところに給食の加工品として提供してあるところがあるんですよね。ですから、豊岡だけじゃなくてよそも休校だったから、この間は、大変な、本当に、操業を休止してまでやってたというところもお聞きしてます。だから、そういうことからいくと、今のことに対しては大変安心いたしました。

でも、今後また、何か起こり得ることがあったら、やっぱりそういったちゃんと手当をしてやっていただきたいなというふうに私は思いました。

一給食の仕入れ業者だけっていうのは、ちょっといかかとは思いますが、でも、年間の契約の中からですかね、現計予算だから、それはいいと思います。

それから、今の市内の業者、いろんな事業所に対してはいろいろと本当にきめ細やかな対応、対策を考えていただきたいと思います。借りようにも借りれないというような条件がつけられるということも、実は聞いております、個人の事業所では。何でもかんでも貸してあげるよという、どんどん、先ほど、どうぞくまなくご利用いただいたらという発言があったけど、くまなく利用できない人たちがいるから、一番恐れるのは、これから廃業されて、この際だから廃業していくというのは困ってしまいますので、その点もよく十分あれしていただきたいというふうに思います。以上です。これでいいです。

○委員長（松井 正志） 暫時休憩します。

午後0時09分休憩

午後0時13分再開

○委員長（松井 正志） 休憩前に引き続き委員会を再開します。

そのほかありませんか。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） お昼になりましたので、これからはまだ質疑、質問もあろうかと思いますが、政策的な判断とか政策的なところに委ねることがあると思いますから、市長、副市長、それから教育長もご同席いただきたい。午後からの委員会にはご同席いただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

○委員長（松井 正志） ただいま椿野委員から、この予算決算委員会に市長、それから両副市長、教育長の出席を求めたいというような発言がありました。

これについて、委員会の議題として追加して、直ちに審議することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（松井 正志） ご異議なしと認め、直ちに議題といたします。

それでは、提案者からありましたように、昼からの委員会につきましては、市長、両副市長、教育長の出席を求めることに決定してよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（松井 正志） ご異議なしと認めます。

そのように決定させていただきます。

委員会を休憩します。再開は午後１時１５分。

午後０時１４分休憩

午後１時１５分再開

○委員長（松井 正志） 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

午前中の審議では、今回の補正予算に関してさまざまな質問がございました。当局におかれましては、適切なお説明、ご答弁だったと思いますけれども、さらに市行政あるいは学校現場等の問題につきましても、もう少し深く質疑、質問したいというふうなご要望がありましたので、午後からは市長、副市長、教育長のほうのご出席を求めていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

引き続き質疑に入ります。

質疑はありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 午前中に引き続きといいますか、初めて質問させていただきますけども、まず、予算規模２，０００万円のこの緊急経営相談会、それから、専門家による個社サポートということで、時機を得た制度であるなというふうに見ておりましたが、まず、緊急経営相談会、労務相談会は、具体的には商工会、商工会議所が窓口だったんですよ。よかったかな。

○委員長（松井 正志） 環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） この事業は、商工会、商工会議所に委託をして、そちらでの相談業務ということで行っていただく予定でございます。

○委員長（松井 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 商工会、商工会議所、私もあんまり詳しく知らないんですけども、スタッフがそうたくさんではないと思っておるんです。ですから、業種からすれば、いろんな業種もあったり、いろんな相談があらうと思いますので、多岐にわたっての相談が受けれる体制はきちっと構築していただきたいということをお願いしておきますけども、その考えはまず１つあるのか。

それからもう一つ、専門家による個社サポートということで、１００社分８００万円ですから、８万円の１００社というようなことだと思いますけれども、どうなのでしょう。市長の答弁で行政書士とかいうことをおっしゃいましたけども、これもいろんな相談があらうと思うんですけども、具体的にはどういった相談員を想定されているのか、商工会、商工会以外にどういう相談員を考えておられるのか、そのあたりの説明をいただきたいと思います。

○委員長（松井 正志） 環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） まず、多岐にわたる、いろんな相談があらうかと思うので、適切にいろんな相談を受けれる専門家を広く委託先にはお願いしたいというふうに思っております。緊急経営相談、労務相談でございますので、金融機関の関係でありますとか社会保険労務士さん、そういったところを中心にして、ケース・バイ・ケースで専門家

のほうはお願いしていただきたいというふうに考えております。

それと、100社程度の相談というような形での積算にはなっておりますけれども、それぞれ個社によりまして、濃淡といいますか、手間の加減は違うというふうに思いますので、場合によったら手厚くといいますか、少し念入りにしていただかないといけないものもあれば、そうでもないものもあると思いますので、その辺は見えわめながら調整をしていきたいというふうに思っております。

○委員長（松井 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 相談にはいろんな方面があらうというふうに私も考えておりますけれども、まず1つには、その前段で4,000万の緊急融資の話もありましたけれども、3末であるとか4末であるとか5末であるとかいう、月次の一番最後にやはり事故が起こる、起こりやすい時期でございますので、金融相談についてはできるだけ慎重かつスピーディーをお願いをしたいという事は思っております。ショートするのは本当に早いですから、皆さんがご承知ない分野ではあるんでしょうけれども、事業がショートするのは本当に金融からショートしてしまいますので、非常にばたばたと来るもんですから、ぜひ、そういったことも、商工会、商工会議所さんも、実は玄人ではございませんので、勤め人さんでございまして、その辺もよく課長のほうでプッシュをしていただいております。

ですから、個別相談の中でいろんな方面があるとは思いますが、いろんな分野に的確に対処できるような考えを持っておいいただきたい。

それともう一つ、本会議でも申し上げましたけれども、こういった際に事業をやめてしまおうという力が働くもんなんです。ですから、そういったこともどう捉えてどうできるのか。これも大事な視点だと思いますので、その辺についても商工会、商工会議所一緒になって、そのあたりの情報を把握することは、ぜひにしていきたいなというふうに私は思っておりますけれども、そのあたりのお考えもごありますか。

○委員長（松井 正志） 環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） 業務のほうは委託をいたしますけれども、やはり適切な時期に連携をとって、いろんな情報交換をしながら進めていくことは必要だというふうに思っておりますので、今、議員がご指摘いただいたようなことを踏まえて、連携は強化していきたいというふうに思っております。

○委員長（松井 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） それと、コロナ対策としての補正予算で、きのう見させていただいたんですけれども、この中で一番、私はぱっと見てぱっと思ったのは、まず、どれだ、演劇、どれだったかな、3ページ、これか、これやな。4番の事業概要の大交流の実現の中で目についてしまったのが、やはり質の高いアート体験の提供ということで、コロナ対策として、まず質の高いアート体験の提供ということ为先ほど課長言われましたけれども、ここがもう突出した形で目についたんですけれども、基本的に青年団ですとか、ここがコロナで相当ダメージを受けたという認識でよろしいんでしょうか。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 具体的に青年団がコロナ対策でどのような影響を受けられたかというのは具体的に把握をしておりませんが、基本的に全国の劇団にはすごく大きな影響を与えてるというふうに理解をしております。

○委員長（松井 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 密室空間で演劇をしたり、お客さんに来ていただくということから考えますと、当然、3月のこの状況の中ではダメージは受けられるんだろうなということを思うんですが、えらい急激に早い補正予算で、この4,872万5,000円がこうして組まれたということで、まず、コロナ対策としては本当にこれからいろんなところでいろんな影響が出てきて、それが顕在化してくるのが、僕はこれからだと思ってたんですけれども、子供にかこつけた、子供に元気を与えるというような言い方をされてましたけれども、その中で演劇というもののいろんな河畔劇場、アートセンター、出石永楽

館での演劇、ワークショップの開催、それから町なかパフォーマンス、デジタルアート、絵本作家のサイン会とかいうのが出てきましたんで、ちょっと違うんではないかなと、順番からしたら。やっぱりきちっと状況を見て、当然、今の心配はコロナをどうして抑えていくかに皆さんかかっておられるんで、そのときに、市長、さっきちょっと説明されましたけども、夏休み云々、先んじて計画するんだということをおっしゃいましたけれども、私は何か逆なような気がして、今からきちっとコロナの影響についてを精査しながら、途中で臨時議会を開いていただいたら結構なんで、そのときにいろんなスケジュールといいますか、この案件を出していただいて協議をするというふうな気がするんですけど、いかに早くこれが出てきたんで、私は個人的にはきのうの夜9時ごろ聞いたんでびっくりしたんですけども、これはコロナ対策と言いながら演劇対策ではないのかなというふうな気がしたんですけど、そんなふうにとれるんですけど、違いますか。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） 違います。これは要するに観光対策です。今、コロナウイルスの関係で最も顕著に早くあらわれてるのが観光です。もう宿泊のキャンセルがずっと続いてると。これは、特に城崎を中心に観光業の方々との意見交換をいたしました。大変な危機感で、これが恐らくもう連休も、大型連休も6月も戻ってこないだろうと。したがって、7月、8月もこの状況であると旅館はどこももたない。そこで、せめて7月、8月に期待をして、状況が許すようであれば、そこに一気に観光のキャンペーンを打っていかなければいけないという、こういう話がございました。

先ほども申し上げましたけれども、6月か7月になってから予算化をしてたんじゃ間に合わないわけですね。7月、8月に豊岡にお越しくださいと言おうとすると、言うのはもちろん7月の初めぐらいじゃないと言えないかもしれませんけれども、例えばウェブでやるにしても、ウェブの準備が要ります。あるいは雑誌を持ってPRをしようとする、雑誌

への事前の話し合いが要りますし、それから、どういう中身で訴えていくなんていうことも、これも不可欠です。ですので、このタイミングでなければいけないと。

今、もちろんいろんなところで影響出てきてますが、最も深刻な状況にあるのが観光ですので、観光業の方々に少し和らいだときには、もう間髪入れずにやりますというメッセージを送る必要があるという意味でも、このタイミングだろうというふうに思っています。

そこで、さらに、これは観光業の方々とも議論をしたんですけども、恐らく日本中が安売り競争をするだろうと。うちに来たら5,000円補助するとか3,000円補助するとかという。その中で、例えば7月、8月に旅行が可能な状況になったときに、それでも豊岡に来てくださいと言おうとすると、豊岡に来るツアーといいたしましうか、旅を魅力的なものにしなければいけないということになって、観光業の方の側から、子供たちをターゲットにしたいと。大人もみんないいかげん飽き飽きしてるわけですから、子供たちはとりわけ厳しい状況に置かれていますから、子供たちをターゲットにして、子供たちが豊岡に来てくれば、当然、親がついてくるということになりました。

では、その子供たちをターゲットにするときに、豊岡としてどういうものを加えれば、豊岡への旅が魅力的なものになるのか。それは豊岡の強みを、つまり乗せるほかはないということになって、1つはアクティビティーですね。神鍋高原で気球に乗ったりとか、グラススキーをしたり、あるいは夏ですと竹野浜に行ったらラグーンでつかったりすると。そういうものに対するクーポンを出してはどうかということになり、さらにもう一つ、日本のほかへ行くよりも豊岡に来るといったときに、ここに質の高いアートというものを加えれば、それは豊岡の強みであるわけですから、それでもって、魅力満載の商品をつくっていかうということになったものです。

幸いにして、河畔劇場が既にあるわけですし、ここはまさに世界的なレベルの劇団がいるわけです

から、これを利用しない手はないと。あわせて、青年団自身はやや高学年向きの作品が多うございまずので、もっと低学年向きの劇団も要るだろうということで、江原河畔劇場、青年団以外にも外から特に低学年向きのものを招いていこうと。さらに大道芸については、日本の第一人者の方が、このような方が既に出石に移り住んできておられますので、この方を例えば一月間押さえてしまって、豊岡の至るところで演劇をやってもら、パフォーマンスをやってもらこと、それも大きな魅力になるのではないかな。

また、デジタルアートにつきましても、これは観光業の方のほうから、最先端のアートですので、何ていうか、特殊な、どっちかいうと質がすごい高いというよりも、最先端の技術をもって、みんなの注目を引きつけるようなものができるはずだということで、それについても上げようと、こういうことになったところです。

結果として、先ほど担当課長言いましたように、劇団青年団も相当ダメージを受けてます。アメリカ公演がキャンセルになり、尼崎共演がキャンセルになりと受けてますけれども、したがって、結果として支援という面は当然出てくるわけですが、経緯としてはそういうことではないと。また、ほかから招く劇団についても、日本中の劇団が実は大きなダメージを受けていて、存続の危機にあるということですから、むしろお互いにこれはギブ・アンド・テークというか、ウイン・ウインの関係になるんじゃないか。まさに豊岡だからこそ、こういったことが打ち出せる、あるいはそういう発想が持てるのではないかとということで提案のようなことになっております。

○委員長（松井 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 1つだけ。今、市長の答弁というか聞かせていただきまして、理解できる部分も多々あるんですけれども、私はやはり我々が観光が一番ダメージ受けますよ、飲食も受けますよ、そのほかもういっぱい受けますよということは我々も提案しているわけですが、余りにも早くこれが

ぽつとできて、さっきの谷口課長の話では、1人たりとも、1人であってもやりますよということを言われてましたね。そこがやっぱり性急過ぎるという気がしたんです。こういった公費を4,800万円強使うという中で、どうしたら本当に効果があるのかをするにはやっぱり時間が要るわけです。それから、終息の経緯を見ながら、だから、お金を使っただけのは僕は丸なんですけれども、はっきりと言えやっぱりもうちょっと客観的、冷静に周りを見て、コロナがどういうふうに移っていくのかということを考えて、議会とのやりとりもしながらやっていただくちゅうのは、僕は正解なんじゃないかなと。

だから、当局が急いでいかれる今だからできるんだということも、ある面は理解しますけれども、やっぱり拙速というか、そういう面もあるし、答弁も無理なところがあるなということで、さっき聞いておりましたので、せっかくの予算ですから、やはり有効な形になるように、余り急がば何とか言いますしそういうことも言いますんでね。ですから、やっぱりそういう大事な公費を大事に使っていただき、皆さんが助かる方向をつくっていただきたいなということを考えておりますので、その辺、最後、ちょっとくくっといいただかんと座れませんので。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） 1人でもやるというのはあり得ないと、1人なんかならないと、1人にはならないということです。実際に演劇については、外から招く劇団については、全ての小学校を回ってもらうことにしています。先ほど申し上げた大道芸についても、これも回っていただくことにしています。

恐らくデジタルアートについては、これまで豊岡の人はほとんど見たことがないものですから、これは必ずお客さんが来ると。平田オリザさん自身の演劇も、これはまさに日本を代表する世界的な劇団の演劇ですので、これは必ず来るというふうに思います。1人でもというのは、多分言葉が走ったんだろうというふうに思っています。

それと、タイミングについては、福田議員のおっしゃることもわからないわけではないんです。ですけども、今でなければいけないというふうに思っています。今言わなければ、次、臨時議会を開くといっても、果たして日程調整できるのかと。そのときにももちろん専決はできます。そうしますと、議員の皆さんと議論をするまもなくやらなければいけない。しかし、今ちょうど議会開催しているわけですから、こうやって議論をやりとりすることができます。

先ほど言いましたように、実際に7月、8月に本当に行えるようになった場合のことを考えますと、今から準備しとかなないと、これ、絶対に間に合わないんです。これ、例えば4月に臨時議会、仮に開けたとして、様子が見えて議会の議決をいただいてから、それから、ホームページのアピールの仕方であるとか、先ほど申し上げましたけど、雑誌とのやりとりであるとか、これ、間に合わないわけです。劇団そのものが押さえられるかどうか、これもわからないということがありますので、その意味では確かにもう少し後であれば、もっと効果的なものってひょっとしてあるかもしれませんけれども、でも、それは実際わかった段階で補正をするなり、追加をするなり、あるいは既定の予算を変えるなりして、それは可能なわけですから、今、お願いしたいのは、とにかくいつでも動けるように玉だけは持たせといていただきたい。

物の考え方としては、先ほど申し上げたように、安売り競争ではなくて、豊岡に行く意味があるというのは付加価値をつけるということだということで、ここはぜひご理解賜りたいと思います。

○委員長（松井 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） もうやめときますけれども、基本的にはきょうのあれで出ましたけども、国が3万円のクーポン券か何か出ましたけども、いろんなところが、国も県もあるいはまた市もそうだと思いますけれども、そういった施策を打ってくるんじゃないかと思っています。その中で急いで考えていかな間に合わんということも、ある面は理解はする

んですけども、それはそれとして、やっぱり表層になりますのでせっかくこうして予算化されるのであれば、その予算が本当に生きる形を、ぜひ、それはよくここへ焼きつけといていただきたいということが1つと、もう一つは影響が、今、申し上げましたように、演劇だけではなくていろんな業種に行き渡っております。いろんな程度の差が出てきて、これからよりそれが顕在化してくると思うんですけども、そういったことに対してのやっぱりアンテナをきちっと張っていかないと、演劇というのは、今、小学校も中学校もまちの一つの柱として立てておられますけれども、しかし、豊岡市を構成するのは演劇だけではございません。やっぱりタケノコがあって、いろんなところでいろんな力を発揮して、ここ何十年、何百年続いてるわけですから、ここへ住んだ人が、こういったコロナ禍と言うほどの大きな災いの中でどう生き延びていくかということが一番大事だと思いますので、ですから、演劇も大事に皆さんは考えていらっしゃるんで、それはそれでよしとしますけれども、わからない、目に見えない部分についての手当をこれから顕在化したやつを潰していくということは、今以上にやっぱり考えていただかん、問題になるということを考えておりますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

ですから、そのときについても、当然、こうして私もきのうの晩9時ごろ、これを見させていただいて、演劇だけが、これ、大変だなと思って見たんですけども、それ以外のことがいっぱいあると思いますので、そういう意識をやっぱり市の職員さん、市長以下、しっかりと持っていただきたいということをお願いしておきたいと思います。以上です。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

芦田竹彦委員。

○委員（芦田 竹彦） この皆さんの意見を聞いておまして、私も1点だけちょっとお伺いしたいと思います、アクティビティのクーポンですね。このクーポンで豊岡市外の方が2万3,000人、市内の方は7,000人の方対象で3万人ということ

で、豊岡にも反転攻勢やるんだという、私も大賛成なんです。

大賛成なんですが、対象者が気になりました。小学校及び中学生ということになっておりまして、例えば豊岡に親御さんで来た場合、小学校の方とあるいは3歳とか4歳とかいう方の兄弟で、一家で来られるケースがあって、小学生の方は1人2,000円のクーポンが対応できますけども、じゃあ、幼児の方は何もないということがちょっと私、気になりまして、これは観光先でいったら、乳幼児は半額であるとか、例えばもっと安いとかいうことなのか、いやいや、もう豊岡はもう3万人規模の、こういった形で全国からも豊岡に来てくださいよという体制で迎え入れて、観光産業も潤うという体制のことから考えると、全ての子供たち、乳幼児からもう中学生まで対象とされたらいいんじゃないかなと私は思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） 言われたような点、私たちも検討いたしました。実際にどの施設にどのくらいお金がかかるのかということを調べ上げていくと、それほど、まず乳児自体はそもそもかからないと。幼児についても極めて低廉であると、あるいは無料である。したがって、そのところにプラスアルファ出すことが、外から見たときにそれほど魅力的には映らないということから、小・中学生ということに限定をいたしました。

先ほどの福田議員のご質問と関連するんですが、要は中の人はどう見えるかではなく、外から見たときに豊岡に行く旅行が魅力的に見えるかどうかが重要になります。そのときにクーポンがもし出るとすると、親御さんたち、何万円かお金もらってどこに行こうかなと考える。そのときに、子供たちが私はここに行きたいと言ってくれる、そういう観点から、今の子供たち来てるわけですけども、今申し上げましたように現実の費用とか調べてみますと、余り魅力的にはならないと。もちろんあればプラスにはなりますけれども、ですので、むしろ同じ支援を使うのであれば、小・中学校のほうに集中したほう

がいいのではないかなというようなことです。

福田議員にも、あわせてこのことで大変恐縮ですけども、中の人たちではなくて外から見たときに豊岡に行こうというときに、何が魅力的に映るのかということを考えて、それで演劇になっているということについても、ちょっとおかりして大変恐縮ですけども、ご理解賜ればと思います。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

岡本委員。

○委員（岡本 昭治） ちょっとまた、済みません、2点ほど確認をさせていただきます。

質の高いアート体験の提供の中で、江原河畔劇場だとかアートセンター以外に、今、お話を聞いてましたら、小学校単位での巡回ですね、公演をするということで、ここでは検討と書いてあります。今、市長ではもうするということと言われましたけども、この文章中は検討となってますけども、例えばする場合、これ、7月、8月、夏休み中にすると、当然、学校はほとんどいなくなってしまいますけども、これは全校登校させてそこでやるということなのか、個人的に、今、開いてますから来てくださいよという扱いになるのか。それと、小学校じゃなくて中学生がいますので、その辺の扱いをどうするのかというのが1つ、1点あります。

それと、この4,800万円のまた積算根拠ですね。アからウまでの、多分積算されて4,800万円が出てると思いますので、アからウまでの金額を教えてください。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 小学校での巡回公演については、もう基本的には前向きに検討させていただくこととしておりますけども、まだ相手方も特定できておりませんので、そういった調整の中で前向きに検討させていただきたいというふうに考えてございます。

また、中学校に関しましては部活等もございしますので、夏休み中にそういった機会を設けるのはなかなか難しいだろうという判断をさせていただきます。

それから、次、費用の積算でございしますが、まず

アの江原河畔劇場、それからアートセンター、出石の永楽館を想定した演劇の上演につきましては、1公演40万円の20公演を予算として積算してございます。それから、城崎国際アートセンター、それから出石の永楽館、それから、前向きに検討させていただくと言いました小学校の開催も含めまして、1公演30万円で45回の公演を予算として積算してございます。それから、町なかのパフォーマンス、大道芸でございますけれども、1回3万5,000円という積算根拠で15日、2公演プラス3万5,000円掛ける15会場で207万5,000円の予算を計上いたしてございます。それから、子供が楽しめるデジタルアートといたしまして、制作費、運営費含めまして2,050万円の予算を計上してございます。最後は、絵本作家による絵本の朗読会及びサイン会ですけれども、期間中5回の開催を想定いたしまして、合計で165万円を予算を計上してございます。以上でございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 予算の内容についてわかりました。

中学生の件で気になったんですけど、当然、7,000人というのは小学校と中学校でちょっと調べますと、5月1日現在で6,357人という数字が上がっています。7,000人はちょっと多いんですけど、中学生をどこで見えていただくかというのが、また大事になってくるかなと思いますので、何か今、考えておられることがありましたらお聞きいたします。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） お配りをします7,000人に対するクーポンにつきましては、アクティビティーの引きかえ券でございまして、基本、アートの機会の提供につきましては無償を想定してしますので、そういったことでご理解いただければというふうに考えてございます。

○委員長（松井 正志） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） ありがとうございます。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） まず1点目、先ほど岡本議員から言われたやつの詳細な資料はちょっといただきたいなというふうに思いますけれども、お願いできますか。

○委員長（松井 正志） 後で検討します。後で準備します。提供されるようですので、配付します。

○委員（田中藤一郎） 質問をします。私の質問の内容はリスクです。午前中もちょっとお話しさせていただきましたが、コロナの部分で言いますと、かなりやはり先ほど市長いろいろ言われてましたが、室内でやるという部分については、100%ということがない限り、万が一のことがあった場合、どのように、もしやられて出た場合はどのような対処を考えられていて、こういったやつが出てきたのか、もう一度お願いします。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） こういう事柄の場合には100%ということを考えてはいけないというふうに思います。つまりさまざまなリスクがあるわけです。今、室内のことだけおっしゃってますけれども、例えば出石のそば屋さんにお客さんが入ったときのリスクはどうか、どこが違うのか、変わらないわけです。いえいえ、変わらないです。建物の中で、結局、クラスター3要素が同時に重ならないようにと言ってる趣旨は、感染力は強いけれども、ある程度の距離をとったりだとか、それから、言葉を直接交わすことがなければ防げる、あるいはリスクは低いと。これをゼロにしなければいけないといったら、私たちはみんな家に閉じこもって、一切、外に出るなどと言うほかはありません。ですので、100%かゼロかという議論を決してしてはいけないということだと思います。

現に、国のこの専門家の会議も、その前提に立っています。社会的、経済的な活動への影響を最小限にとどめつつ、感染リスクを下げる。この前段部分は何かということ、オール・オア・ナッシングはあり得ないということを言ってます。交通事故で、毎年本当にたくさん、1万人近くの人が多分、最近亡くなってると思いますけど、だからといって、車に乗

るなという方はありません。リスクはあるけれども、一方で車に乗ってさまざまな活動をする 것도大切だという比較考量がなされて、総和としてのリスクをどう下げるか。コロナウイルスのリスクだけを考えれば、もうそういうことになるわけですけども、そうではなくて、社会的、経済的なさまざまなリスクを含めて、コロナウイルスのリスクも含めて、そのリスクの総和を極小にしていく、そのための努力をするということなのではないかというふうに思っています。

ですので、国の専門家会議も、建物の中での演劇を決して否定はしていません。繰り返しますけれども、クラスター3要素は同時に重なる場合を、そのところを避けてくださいとしか言っていないということになります。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 理屈ではそういうふうな話もあるかもしれませんが、もしも本当にこういったところでコロナに感染したとなった場合、城崎をはじめ観光地、この豊岡にはもう人が全く、理屈は言われてるようなことがあったとしても、もしもこういったことが報道されて、した場合、経済的な打撃というのは想像を絶するような気がするんですけども、そういったところ、本当に考えられておられるんですかね。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） こういうときに余り思い詰めることが重要なのではないかというように思います。

さっき言いましたように、出石のそば屋さんに今でも観光客いっぱい来ておられます。それが、建物の中であろうが外であろうが、あるいは外で物を売ってる人と接触しても、それが近ければ感染の可能性はあるわけです。そのときに、陽性1人出れば出石には行かないと恐らくなるだろうと思います。同じことです。演劇だけを特別にするということは意味はない、このように思います。

現に、どっかのうつしてやるぞと言った方は、隣に座って接待した女性にうつったのではなくて、入

り口のところで休んでいたソファに座っていた別の女性がうつっている、こういうことでありますから、このことまでゼロにすることを考え出すと、繰り返しになりますが、私たちは一歩も外へ出られないです。そういうようなあり方というのは、厳に慎むべきである、このように思います。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 何回も言うような感じがして、なかなかかみ合いせんけれども、リスクをどういうふうに考えるかというのは、もう想定外以外のことをやっぱりしっかりと考えた上でやっていただかなければ、本当に個人の、今、そば屋さんで来た場合は、それは個人が来られてやっと対処になりますけれども、これは豊岡が主催してやるものに対して来た場合、それも無料で来た場合、全然やっぱり趣旨的な部分というのはもう全く、逆にそういった方を集めたような状態の報道だとか、そういうふうな形でやられた場合は、本当に城崎がほかの、城崎ばかり言いますけど、出石も例えば夏休み期間中に一番大事なときに、全くお客さんが来なかったというふうなこと、ちょっとそういうどうしてもそういうリスクというふうな部分を、本当に真剣に考えたときには、確かに言われるようなことはあるかもしれませんが、それをどういうふうに回避、やり方もいろんなやり方があると思うんで、そういうところを考えてもらわないと、国が発表してる指針どおりにやってるんだと言われても、もし出ちゃった場合は、やはり恐ろしい経済的な打撃というのが豊岡の中には、1カ月とまった場合を考えただけでも恐ろしくて怖いんですけども、本当にそういうふうな部分を考えられておられるのかというような話をすれば、また同じような感じになってくるかもしれませんが、ちょっと非常に懸念とともに、皆さんも考えとっていただかなければ経済がとまってしまうのかなというふうに思っています。

続いて、もう1点だけ、万が一やられて、演劇の方がコロナにかかった場合のリスクとかは考えられとるんでしょうか。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） 演劇の人でなくたって、みんなリスク負ってます。今、私たちも負ってます。例えば田中議員がきのうどなたかと会われたとして、その人が感染者であれば会派の皆さんみんなかかるリスクがあります。それと何が違うのかということですね。別に演劇の役者がかかる可能性があれば議員がかかる可能性もあり、そば屋の店主がかかる可能性もあり、あるいは旅館の大将がかかる可能性もあり、いっぱいあるわけです。そこに何ら違いはありません。

ウイルスは田中議員やあるいはそば屋の大将や演劇人を差別、区別しません。そんなことで取りついたりするわけではないわけですね。ですので、ここはもう少しおおらかに、冷静に考えていただくのがいいのではないかと思います。第一、正確率的に考えてみて、今たくさんの出てますけど、1億2,000万人のうち例えば1,000人、2,000人がかかるとして、ある100人の規模の会合にその感染者が紛れ込む確率は一体どれほどあるのか。さらに入っていたとして、その人がほかにうつす確率がどれほどあるのか。そもそも先ほど以来申し上げている3要素というのは、仮に感染者が入ったとしても、ほかの人へうつすリスクを、集団感染になるようなリスクを防ぐためにこういうことをしなさいということを申し上げてるわけですね。ですから、もともととにかくゼロではないということとはなから前提になってるということだろうというふうに思います。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） ちょっと僕が言い方を間違ったかもしれないですけど、劇団員が出れば、よくそこにかかわった人が検査しないといけなくなったら、公演自体がとまってしまうんじゃないかなというふうな、ちょっと意味合いの部分だったんですけども、それが例えば1週間停止したりだとかいうふうなことも考えられるんですけども、そういったことは考えられているのか。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） 予定している劇団員が実際に感染した場合に、その劇団員が演劇に出るということはまずあり得ません、あってはならないと。その劇団員が、それまでに稽古のところで他の劇団員と一緒にになれば、他の劇団員は濃厚接触者になります。したがって、この濃厚接触者に対しては調査がなされ、そして、健康状況について観察がなされ、それから、もちろん検査もなされるでしょうし、その上で感染が確認されればまずは自宅で隔離、それから、入院しなければいけない状況になれば、これは入院すると、そういうことになるだろうというふうに思います。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） 悪かったんかもしれないんですけど、それによって演劇ができないというリスクがあるんじゃないかなというふうなこともあるんですけども、どうですか。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） それは全くそのとおりだというふうに思います。ですので、劇団員を全員、演劇するチームを変えてしまうとか、あるいは別の劇団に頼むとか、それから、もちろん演劇そのものが急であれば、これはもう中止せざるを得ないというふうに思います。

これは別に演劇にかかわらず、全てのことにいって言えるんじゃないかと思います。ひょっとしたら、この議員や当局から出れば、もう早速議場も閉めなければいけないということだってあり得るわけですね。ですから、そういったリスク自体全てありますし、そういうことが現実化したときには、それに対してやめるとか、あるいは配役をかえるとか、そういったような対応をすることになるだろうと思います。

○委員長（松井 正志） 田中委員。

○委員（田中藤一郎） いろいろとかみ合わない部分があるんですけども、決して対策があかんだとかいうことではなくて、そういうリスク的な部分が僕自身は非常に気になっています。特にそういった風評被害、1人だろうが10人だろうが100人だろ

うが、風評被害が起きたときのことを考えると、非常にそういった形で考える事業がこの中にあるので、そういったところを我々自身もしっかり考えていただきたいなというふうなところで終わります。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） もう大分時間を経過しましたので。

○委員長（松井 正志） マイク、マイク。

○委員（井上 正治） 失礼しました。時間も経過してまいりましたので、端的にお伺いしたいと思います。

まず、このコロナウイルスに関して窓口を設置されたと思いますが、どのような状況で今まで経過したのか、問い合わせ等がどのような状況にあるのか、現状をお知らせください。

○委員長（松井 正志） 総務部長。

○総務部長（成田 寿道） 市役所では警戒対策本部を設けて、それぞれの問い合わせに対しては答えていると思うんですが、特に市役所ということであれば、まず最初に総務課のほうに、市民の方から等は電話は入っていますので、そこから関係の部署、健康福祉部であったりというふうに回していくというような取り扱いを一にしています。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） 問い合わせの件数であるとかワンストップ化というのがされているのかどうか、その辺はいかがでしょうか。

○委員長（松井 正志） 総務部長。

○総務部長（成田 寿道） 先ほど申しましたように、それぞれの市民の方が、それぞれの思うところに電話はしとられるとは思いますが、そこで何件あったというのは、総務課では一応、そういう何件問い合わせがあったとか、どういう内容のものがあったというのは押さえてはおりますが、それぞれの部署の中でそれができてくるかというのは、ちょっと今の時点では把握できてません。

○委員長（松井 正志） 環境経済課とかはないか、照会とか。相談とかは。環境経済課長。

○環境経済課長（柳沢 和男） 総合相談のような形で設け方はしておりませんが、適時、相談があればお聞きをさせていただいて、関係機関のほうにつないだりというようなことをしているところでございます。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） 相談窓口につきましては、なるべくきめ細やかにスピーディーにというふうなことでお願いを、私たちの市民クラブからもお願いをいたしたと思います。

どうもお聞きしますと、非常に、今、警戒本部が立ち上げられて、4回ぐらいですかね、会議をされております。この災害というのは、本当に大災害、世界的な大災害であるというふうに私は思いますので、警戒本部がいいのか対策本部がいいのか、私はもう際にあるのではないかなというふうな思いを持っております。もう少し危機感を持って連携を各部署、あるいは総務がどのようなところに何件、どのようなものがあったということについてはきちっと把握されて、物事を進められるほうがスムーズにスピーディーに行くのではないかなと思いますので、これはお願いをいたしておきます。

また、強いて言うならば、情報ラインをしっかりと確立されて、どっかで集約できるようなシステムづくりというのも、私は、今後のいろんな災害の対策においても必要であるなというふうな思いであります。これは意見として申し上げておきます。

それから、当地域にはやっぱりことしの冬は暖冬でありました。暖冬対策が、このコロナで消えてしまったというふうに私自身は思っておりまして、暖冬でもただ単に宿泊業だとかスキー場だとか、そういうものが影響を受けたのではなしに、それに付随する各業者であったり、それから従業員であったり、いろんなところが、もう多数のところがやっぱり影響を受けておりますので、ワンパンチであったら何とか立ち直ると思いますけども、ダブルパンチを受けておりますので、本当にノックダウン状況だと思えます。そういう意味においては、やはりこのコロナ対策においても、暖冬も踏まえながら柔軟な対応とい

うのを拡充していただきたいと思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 1 つには、神鍋を中心としたアクティビティーの受け入れ先として頑張っていたきたいというところもありますし、ここにお示ししますとおり、地域の特性を生かしたコンテンツづくりについても積極的に応募いただいたらというふうに考えてございます。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） アクティビティーですけども、今言われたアクティビティーをどのようなアクティビティーというのをお思いなのか、もし具体的な例があれば、何点か挙げていただきたいと思います。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 基本的には屋外でのアクティビティーを主に想定をしてございまして、熱気球体験でございましてとか、それからシーカヤックでございましてとか、海水浴場のラグーンでありますとかというようなことを想定してございます。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） あくまで屋外ということに限定をされるというふうなことで理解してよろしいですか。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 限定はしてございせん。基本的にそういった方向で考えていきたいというふうに思っております。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） これも柔軟な対応で、やはりアクティビティーというのはいろんなアクティビティーが考えられると思います。これもいろんな方から意見を聞いていただいて、これはききますよ、これはききますよ、そうすればやっぱり幅広くこの対策に役立つのではないかなと思いますので、その辺は柔軟な体制をお願いをしたいと思いますが、いかがですか。

○委員長（松井 正志） 大交流課長。

○大交流課長（谷口 雄彦） 屋外に限らず、幅広く

柔軟に対応したいと思ってます。よろしく願います。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） 柔軟にということで、ご検討いただき、先ほどもありましたけども、柔軟によろしくお願いいたしますと思います。

それから、子供たちが非常にどういいますか、ストレスがたまつとるのではないかなと思います。屋内、屋内、日曜日になったら休校じゃないという部分があつて、ぱつと外へ出られる方もございますし、中にはやっぱりもう少しすぐれた学業の力をつけたということで、屋内で勉強されたりということがあるんですけども、他市ではいろいろとやっぱりどういいますか、I Tを使って授業されたりというふうなことがございますけども、そういう部分であるとか、例えばこれはたくさん寄つては、また例のあれば、クラスターになるんですけども、実は例えばコミュニティセンターを使つての学習支援だとかいうふうなことのお考えというのは、何か案はございますか。

○委員長（松井 正志） 教育長。

○教育長（嶋 公治） 学習内容が未修であつたということが、以前、本会議でお話したとおりで、それはこの限られた時間の中で何とかできそうだと。あとは春休みにどんなふうにして家庭学習をするかということで、それは学校のほうから、学校を通じて文科省のホームページがあつて、そのポータルサイトに自学でできるようなサイトがあつて、それを見ながらやるということが出来ますので、I C Tで学校とやりとりするというのは今できませんけども、それぞれができるように体制を組んでと。

それから、コミュニティで受け皿でやるということは、今のところは考えてございせん。

それから、先ほどからずっと議論を聞いてまして、私は11年前の新型インフルエンザのことをちょっと思い出したんですけど、あのときに中学生が修学旅行に出かけていって、マスクつけていって、どこから来たんだ、豊岡だって言ったら、兵庫県だって言ったら、うつしにきたんかっていうことを言わ

れたと。早速、私、そのとき教育委員会にいましたので、風評被害の指導案つくって全ての小・中学校でやり、プラスして永楽館で小学校6年生に対象にして狂言教室をしました。子供も先生たちもすごく喜んで、そして、そのことが、今、11年間ずっと続いています。なので、そのときにはそれだけでストレスを発散できないかもしれないけども、大人たちも頑張るし君らも頑張れというメッセージだったと。今回のこの体験活動であるとか、あるいは演劇、アートいろいろと子供たちに提供するということは、頑張ったことへのご褒美と、これ、文教委員会でも何とか楽しいことやってくれというお話がありましたけども、そのメッセージで、これからまた何かあるかもわからないけど、やっていこうねということなので、そういう意味は本市の子供たちにとってはあるのかなと。ちょっと回答はずれましたけど、そんな思いを私は今、持っております。

○委員長（松井 正志） 井上委員。

○委員（井上 正治） このコロナウイルスの感染症がいつ終息するというのは全く見通しが立ちません。さまざまに日々が変わってくると思いますので、市当局としても、日々のやっぱり実態をなるべく早く把握していただいて、それに対する対策というのが必要だと思います。その辺はやっぱりしっかりと連携をとっていただく。そして、我々市民の代表である議員も一緒に仲間に入れていただいて、やっぱりお互いの意見を交換するというのは私は非常に大切ではないかなというふうに思います。

ですから、きょうはこんなにたくさんの意見がどんどんどんどん出てくるのであろうかと思いますので、その辺をしっかりとやっていただきたいと思いますし、やはり市民クラブが申し上げましたように、県・国ではできないような小回りのきいた施策であるとか、すき間分野に焦点を絞った施策であるとかいうふうなことでお願いしたいと思いますし、先ほど申しましたように相談体制、これについてはもう少し充実させて、柔軟なしっかりとした対応をしていただきたいと思います。どうもお聞きすると、まだまだぎくしゃくしてるなというふうな印象を受

けましたので、その辺をしっかりと対応して、市民が不安を持たないような情報の伝達のあり方だとかいうものを、市も一生懸命やってますということをしつかりとPRしていただいたら、市民も安心感が増すのではないかなというふうに思いますので、そういうことをお願いしまして私の質問を終わります。

○委員長（松井 正志） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 済みません、先ほど本会議の中でちょっと質問させていただいたんですけど、もう少し教えていただきたいと思ひましてちょっと質問します。

まず、今回の経済対策、商工会、商工振興であったり観光事業に対する補正予算なんですが、そういう予算を見るときに私が思うのは、当然、商工会、経営者、事業者を中心に窓口としてやられるんですけど、その事業所に働く市民の皆さん、雇用されている方が今どういう状況にあるのか。特に豊岡市の場合には中小が多い、個人企業も多い。そういった中で、国の雇用調整交付金ですか、もあるんですけども、そういった交付金がうまく使われて、起業されてる事業者の経営者の方が、雇用されている労働者の方にどういうふうにして回るのか、この辺もすごく気になるところであります。だから、それがうまく機能して、豊岡で暮らしておられる人がこのコロナによって職を失わない、豊岡で働き続けてもらう、そのことまでがやっぱりしっかり行き届いて、この経済対策が私は初めて実効あるものになると思うんですけども、だから、そういう意味で今回の経済対策が労働者、働く人にとって、例えば臨時で働いておられる方も、パートの方も、もちろん正規雇用の方も、おられるんですけども、そうした人に対して、効果としてあらわれるような施策として、窓口だけで終わってはだめだと思うんですけどね。そのあたりのお考えを、どういうふうにもう把握をしていくのか、その手だてについて、今、お考えあったらお聞かせください。

○委員長（松井 正志） 前野副市長。

○副市長（前野 文孝） 私たちもこの施策を考える

ときに、実は前回のリーマンショックのことをイメージしました。私も1つの経営者でありまして、まず大変厳しい状況に置かれました。その折に非常に感じましたのが、そのときにも雇用調整のこういったことを補助金という形で政府は出しましたけども、実はそのときに非常に事務が煩雑で、ある程度大きい企業だと全て自分たちの社労士に任せて、全部滞りなくやったんですけども、ある一定規模より小さな企業、特に豊岡市はほとんどそうなんですけども、そういったところになると、ほとんどの方が諦められていたという状況がありました。ですので、この部分を私たちとしましては、企業の事務の負担を軽くしてあげる、そういった施策のほうにこの補助金を使って、しかも、それを商工会と商工会議所さんのほうも、特に商工会はみずからできる力を持っていますので、それとあと、そういう足りないところは社労士を商工会もしくは商工会議所が手配をして、企業にサポートする、そういったことで事務的な労力を軽くしてあげて、この補助金につなげていきたい。そういったことを通じて、雇用の安定化、失業者をできるだけ出さないということを図ろうと思っています。

これはさらに長期化しますと、また状況が変わってくると思いますので、そのときにはまた、折を見て新たな政策を打っていく、こんなことも必要だというふうに思っています。以上です。

○委員長（松井 正志） 青山委員。

○委員（青山 憲司） 今回のこの補正予算については、これはこれとして確認をさせていただきますが、やはりこのアンケートを見ましても、ごく一部の企業だと思います。その中で、もう既に大きな影響があるというふうに言われてる企業も、多少影響があるという企業も含めて、もう8割近い。今後、長期化することによって、影響が生じるかというアンケートについても、82%の企業が、事業者の方がそういうふうな回答をされている。

やはり働いておられる、豊岡に住んでおられる方が、こうした影響を受けるということは、もう火を見るより明らかですので、ですから、先ほど答弁さ

れたように、細かい、きめ細かい対応をぜひお願いをしておきたいと思います。私からは以上です。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

上田伴子委員。

○委員（上田 伴子） 済みません、先ほどまでの議論の中でもしかしたら答弁があったかもわからないんですが、ちょっと確認させてください。

例えば私が聞いておりますのに、旅館なんかには魚介物を納品されるのに、今回のそういうコロナの関係で、そういう納入ができなくなった漁業者、魚の販売元ですかね、そういうところ辺のことも聞いたりとか、また、農業者の方にも、先ほど給食センターでの納入のことに對しては、元方のほうの、そちらのほうの原資で補償しておられるようなことがあったんですけれども、こういう漁業者の方とか農業者の方の相談窓口というのは、先ほど何かJAさんとか漁協さんとかになると思うんですけれども、そこら辺でのJAさんとか漁協なんかへのコロナの影響については、こちらのほうに、当局のほうに、そういう調査結果が入ってくるのか、どういうふうに把握されていくのかお願いします。

○委員長（松井 正志） 前野副市長。

○副市長（前野 文孝） ご質問いただきました。担当課がいまないので、正式なところ、あれですけども、今の現状で少しそういうことの情報も耳にはしておりますけども、具体的にどういった調査をしているかという、今、現状、私はまだ聞いてございません。

必要に応じて漁協なり農協と協力しながら調べてまいりたいと思います。以上です。

○委員長（松井 正志） 上田伴子委員。

○委員（上田 伴子） 私も個人的に聞いている方がありますので、ぜひ、そこら辺の施策もよろしく願いいたします。

○委員長（松井 正志） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 午前中にも教育委員会のほうにお尋ねをしたんですが、1つには教育長にも、きょうは午後から出てきていただいておりますので、休業、休校ということで2週間ぐらいですか休んでしま

いました。その間、学童とか放課後児童クラブもありながら、子供たちの暮らしは一体どうだったのかな。卒業式も本当に縮小され、それからまた、入学式も楽しみにしていましたが、来賓は一切もう行くことができなくなりました。それは、それなりに子供たちにとっては生涯忘れられぬ卒業式であり、入学式になるのかなというようなことも思いますけれども、これから、そういった休業、休校をやった子供たちの暮らしがどうだったかなというところの把握ができてるのかな。

それから、余り想像したくないんだけど、これからはまたそんなことが起こるようなことがあったときに、同じような体系、同じような環境で学校生活を送らせなきゃいけないのか、その辺のことも、市のほうのこの補正予算の中には、地元の子供たち、小・中学生に対してのこういった配慮もしていつてもらってますから、それはそれであるんでしょうけれども、肝心の学校サイドの学校の現場のほうがどうなのかな。それから、先生たちはどういうふうにして、こういったときにどんなことをなさっておられたのかな、それをお聞きしたいのが1点。

それと、先ほど次長が給食の納入業者に対しての手当として、手当というか現計予算の中でやっておりますから。ただ、よくよく考えれば、いわゆる現物というか成果品をもらわずに、基本的にはお金がそこで、現計が予算だからといって、そういった補償というか、どういうふうな名目でどういうふうな形で処理をするのかということを、今後、また、こういうことがあったときにはどういうふうな対策、対応を、仕入れ業者の人たちからすれば、大変涙が出るほどうれしいことだと思うんですよ。もうはっきり言って補償はしなくてもいいというレベルの話だと思う、もともとは。だけど、そうやって市が、教育委員会がやってくれるということは、大変ありがたいことだなと私は思っられると思います。だから、それをこっちの事務方のほうでどんなふうな切り盛りのやり方をするのかなというところ辺については、ちょっと再度、お尋ねをしときたい。以上。

○委員長（松井 正志） 教育長。

○教育長（嶋 公治） このことはホームページにも載せてますが、再度、お伝えしたいと思います。

2週間の突然の国と県からの休校の要請を受けて、そのときにはせざるを得ませんでした。その間、先生たちは子供たちが放課後児童クラブで受け入れられない子たちを全部受け入れて、それ以外にも時間を見て、電話をしたり家庭訪問をしたりしながら、子供たちの様子確かめました。確かめてわかってきたことが、例えば生活が不規則になっている、ゲーム漬けになっている。ある保護者からは、1週間はまだよかったんだけど、2週目に入ってくるとだんだん言葉が暴力的になってきた。いわゆるストレスがたまってきた。そんなことがあるし、お昼ご飯が用意できなくて、火を使わせてはだめだから、レトルトとかカップラーメンを食べる子が多くなってきた。発達障害のある子についても、本当にしんどくなってきた。そんなことなので、とにかく学校を再開してほしいという声が、子供や保護者や学校の先生を通じて私のところに来たので、それなら、それを、もちろん豊岡市に感染者確認がないということの背景はありますけども、それなら学校で適切に指導した中で、感染症防止の対策をした中で学習したほうが子供たちにとってはいいという判断でやりました。だから、そんなふうに2週間は過ごしてきたと。

本当にけなげに子供たちは、外へ出ちゃだめよと言ったら、ずっと守ってて、それで防災無線で、私が24日、25日に、もうクラスターの3条件の重なるところに行くこと以外は、山に行ったり、川に行ったり、公園に行ったりしてもいいよって放送したら、その次の日は公園にあふれてたといいますから、それだけ一生懸命我慢してたということです。

そういうことで、先ほど言いましたように、演劇、アートなり、それからアクティビティーなりを、よく頑張ったねという意味でやってやりたいというのは私の気持ちでもあります。

今後は、一応、今のところは感染者が学校の中に見つかった場合、先生とか子供、その場合は学校を

閉じます。その学校だけ閉じるということで対応していきたいと。徐々に見ながら、それも緩和できるような状況になったら、緩和していきたいというふうに思っていますけども、なので、どうなるかはわかりませんが、今回学んだことをもとにしながら、対応できることを考えていきたいと思います。

ただ、もう今の時点で修学旅行できませんので、修学旅行はもう秋に送りました。それから、自然学校もどうなるかわからない。トライやる・ウィークも受け入れの企業がなかなか見つからないという状況も出てきますし、さまざまな行事が圧迫される可能性もありますので、そのあたりは学校と相談しながら、どう対応していくかということは今後の課題にしていきたいというふうに思っています。

○委員長（松井 正志） 教育次長。

○教育次長（堂垣 真弓） 学校給食につきましては、もともとの基本の契約どおりにキャンセルをさせていただきました。ただ、その契約と申しますのが、今回のような大規模で長期な休校というものは想定しておりませんでしたので、それにつきましては、この契約の中にもございます、契約外事項ということで、契約書に定めのない事項については、双方が協議して決めるという項目がございますので、豊岡市のほうと業者のほうと相談をさせていただきました。その中で、全事業者に確認をさせていただき、本当に今回の件でお困りではないですかということを確認させていただいた上で、他に転用できたりとか、販売できたものについてを除き、どうしても処分ができなかったものについて、では、その分について豊岡市として、では、買い取りをさせていただきたいということで、今回はしたいというふうに考えています。

ただ、買い取りさせていただいて、納品した場合には、給食センターにかなりの食材が入ってまいりますので、その処分とかにつきましても、かなりの時間と労力が発生しますので、その買い取りさせていただいた上で、業者のほうで適切に処分をしていただくということで、その処分をしたという確認を

した上でのお支払いという形にさせていただきたいというふうに考えています。以上です。

○委員長（松井 正志） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 処分の仕方でも幾らでも協力いたしますから、また、いろいろと城崎方面、城崎だけじゃなくて神鍋もおられますけども、出石のほうもおられますけども、また言っていたら、相談しましょう。

教育長、そういうことで本当に、誰かが言ってましたけども、清水君だったかな。余りこういう言葉を使うとどうかと思うけど、本当にピンチをチャンスに変えるということで、やっぱりこれを本当にチャンスに変えられるような形になって、逆にあのときこんなことがあったけど、本当によろしかったなと言えるような形を、ぜひお願いをしたいと思います。

それから、市長、いろいろと皆さんおっしゃって、いろんなことをおっしゃって心配もされて、たくさんあるんだけど、本当にどうなるかわからない。わからないけれども、それが市役所のせいなんてとっても、するつもりも全くありません。我々議会も責任と役割があるから。だけど、こういうときだからこそ、一緒になって、議会と一緒に、本当に正々堂々と市民に向かって不安を払拭できるような、やっぱり政策をきっちりやっていくべきだというふうに思います。困った困ったということばかりじゃなくて、我々ができること、やり方はいろいろと工夫すればあると思いますから、ぜひ、ドイツの、スイスも来れなくなっちゃって、予算がどうだったか忘れちゃったけども、使わなくても済む予算もあるんで、その辺はうまく上手にやって、できればコロナ対策にも本当にうまく充当してもらえばいいのかな、そんなことも含めていくと、議会も本当に一緒になってやればいいというふうに思っています。その辺いかがですか。

○委員長（松井 正志） 市長。

○市長（中貝 宗治） チャンスに変えるってなかなか言いづらいとこがございまして、転んでもただでは起きないという言い方をいたしております。

今回の補正予算につきましても、椿野議員を初め多くの議員の方々とも立ち話程度でありますけども、こんなことを考えてましたということは申し上げてまいりました。それから、今回の子供対策というのも、先ほど申し上げましたけれども、観光業界の方々と話し合いをした上で、踏まえてやったものでありますけれども、そういったようなことについても、細かい数字まではお伝えしておりませんが、できるだけ多くの方々にこんなことを考えてましたねということを言って、今日に至ってます。

こういう緊急のときには、できるだけ多くの目をもって物事を見て、そして、対策を考えていくことがとても大切だと思いますので、引き続き議会の皆さんとも、きょうのような正式な場はもちろんでありますけれども、それ以外の場でもさまざまに意見交換をさせていただきたいと思ひますし、状況がこんな状況になってるというような情報もお伝えいただければ、私としては大変助かるかなとこのように思っています。

もう毎日毎日、私も市役所に来る前に、途中のお地藏さんに平穩無事を、おさい銭を上げてから来るわけでありますけれども、しんどい中ではあるんですけども、いつまでもこういうことが続くわけではないということで、お互いに希望を捨てずにしっかりとやっていきたいと、こんなふうに思っております。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

ないようですので、質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（松井 正志） 討論を打ち切ります。

お諮りいたします。本案は、原案のとおり可決すべきものと決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（松井 正志） ご異議なしと認めます。

よって、第45号議案は、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

ここで当局の皆さんは退席いただいて結構です。ご苦労さまでした。ありがとうございました。

暫時休憩します。

午後2時22分休憩

午後2時29分再開

○委員長（松井 正志） これより、委員会意見の要望のまとめに入ります。

当委員会の意見・要望として、委員長報告に付すべき内容があれば、それぞれご発言いただきたいと思います。

青山委員。

○委員（青山 憲司） 先ほどの補正予算に対する意見を5点ばかり申し上げたいと思います。

今回のこの予算については、商工、それから観光業でありますけれども、商工、観光業以外、例えば農林水産業等も含めての事業者に対する支援策、これは雇用確保も含めてでございますが、の検討並びに迅速な実施、それから、2点目に市内事業者等への風評被害に対する対策並びに迅速な対応、これは先ほどの商工会、商工会議所のアンケートの中にもございましたので、風評被害に対する懸念がございましたので、それに対する対策、迅速な対応を求めるというもの、それから、3点目には補正予算の用途に対する市民への理解を得るための十分な説明、それから、4点目にクラスター発生の要因となるリスク回避対策の徹底、これは先ほど田中議員からもありましたように、江原河畔劇場あるいは城崎国際アートセンター、出石永楽館という個別の会場での開催に対する、クラスター感染ということに対するリスク回避の対策の徹底をするということであります。それから、5点目には国や県への緊急財政支援の要望を当局としても強力に進めていただきたい。以上、5点を意見に入れていただきたい、このように思います。以上です。

○委員長（松井 正志） ほかにありませんか。

井上委員。

○委員（井上 正治） それでは、要望・意見を文面の朗読をもちましてお願いしたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援について、日々国内外の状況が変化しつつあること

を踏まえ、本市の現状を十分に注視しながら、限られた財政を有効的かつ集中的に活用し、機敏で効果的な予算編成とその確実な執行に努められたい。なお、今後の追加経済対策を検討する際は、市の代表である議会の意見を把握するなど十分連携して取り組むこと。

1つ、中小企業への支援については、市内商工団体との連携のもとに、時期を失することなく経営相談や労務相談を行うとともに、窓口の周知や相談の場の拡大を通じて、団体非加入の個人事業主や企業に対しても、きめ細やかな支援が及ぶよう留意すること。

(仮称)豊岡応援プロジェクト“豊岡を遊ぼう”については、市内はもとより全国の子供たちへの応援メッセージを発信しようとする取り組みであり、新型コロナウイルスへの反転攻勢を目指す、豊岡市の個性を生かした取り組みの一つと言える。感染症の終止が見通せない状況ではあるが、豊岡での体験を通じて、子供たちに元気を与え、その取り組みを通じて、地域経済が循環し、アート(団体への支援)や観光分野のみならず、その効果が市内全域にわたることを期待する。以上です。

○委員長(松井 正志) ほかにありますか。

浅田委員。

○委員(浅田 徹) 今の市民クラブさんのにつけ加えて、特に質の高いアート体験の提供であります。非常にまだ、収束に、おさまらないコロナウイルスの関係で、同会派の田中委員も言うておりましたように、非常にクラスター関係、そういうことも十分状況判断しながら、特にアート体験が突出して予算化されており、無償で提供というふうなことがございます。この時期、財政調整基金をここに投じて、期待ですね、しっかりとしたやっぱり市民に還元できるような、そういうことも踏まえて実施に当たっては検討されたいということをつけ加えておきます。以上でございます。

○委員長(松井 正志) ほかにありますか。

竹中委員。

○委員(竹中 理) うちの会派からも、先ほども

言いましたけど、今後、いろいろな手だてを打たれると思うんですけども、ぜひ教育とか福祉の面の支援の強化ということで、先ほども言いましたけど、生活福祉資金の貸与は既には行っておられるということでもありますけども、その周知、告知をもつとして、柔軟かつスピーディーにするようにということと、あと特に学童保育とかこども食堂、それから校庭開放など、子供の居場所づくりに対して、市や県連携して支援をぜひ強化していただきたい。先ほども言いましたけど、県のほうでLINEの相談みたいな、豊岡市ではあんまりされてないということですけども、これ機会に拡充や4月以降、活用、ぜひお願いしたいなということをお願いします。以上です。

○委員長(松井 正志) ほかにありますか。

ないようでしたら、今の4名の方からの意見・要望について、議題とさせていただきます。

青山委員から5点の内容のものでした。井上委員からは3点、それから、浅田委員からは大きく分けると2点、それから、竹中委員については少し観点が違うものがありますけれども、教育であるとか生活であるとか制度のPR、あるいは学童の関係でした。今回の議案になっておりますのは、補正予算ということですので、できれば補正予算に限定し、なおかつ、さらなるコロナウイルス対策については全般的に、市民の安全・安心を守るために意見を付すというようなことでまとめさせていただきたいなと思いますけれども、それでよろしいでしょうか。

そして、なおかつ重複するものについては、統合させていただいて、まとめさせていただくようにしたいと思いますので、この内容でご了解いただけますか。

ご異議なしと認めます。

したがって、当委員会の意見及び要望につきましては、先ほどの4人の方の意見を基本に、正副委員長のほうにご一任をいただきたいと思います。

時間もありませんが、この際、特にご意見がなければ終了させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の予算決算委員会を閉会とさせていただきます。

午後２時３８分閉会
